

ワークシート(第1章 EPISODE)

EPISODE 1-1

● なぜ4年生で「ごんぎつね」を学ぶの？

4年1組の1時間目は国語の時間、新しい単元は、「ごんぎつね」です。いたずら好きのきつね「ごん」はいたずらをして、貧しい農夫の「兵十」のとった大事なうなぎを逃がしてしまいます。しかしそれは、兵十が病床の母に食べさせるための大事な獲物だったことを悟ったごんは、自分なりのつぐない（栗や魚を届ける）を始めます。物語の最終場面でごんは兵十に銃で撃たれて死んでしまいますが、その直後に兵十は「ごん、お前だったのか。いつも栗をくれたのは」と、ごんのつぐないに気づくという悲しい結末を迎えます。子どもたちは物語に強い印象を受けています。最後の場面についてのクラスの討論では、子どもたちからさまざまな意見が出されました。



先生「この場面で、ごんと兵十は、どんな気持ちだったでしょう？」

子どもB「ごんは見つかって、撃たれて悲しかった」

子どもC「でも、兵十につぐないの気持ちが伝わって、少しほっとしたかもしれない」

子どもD「兵十は、はじめは泥棒きつねだと思ったけど、ここではとんでもないことをした、って後悔している。でも、なんでこんな悲しい結末なんだろう」

EPISODE 1-2

● 場面① 自然物の認識——花や鳥など自然物を見聞きしたとき

例：5歳のEちゃんは、登園路の道端の花を見るのが大好きです。「タンポポがニコニコしている」そんな風にお母さんに話しかけています。

● 場面② 友だちとの交流——友だちと遊んだり、けんかしたりしたとき

例：10歳のFさんは、ささいなことで友だちと仲たがいし、怒りを感じています。でも、どちらが悪いだけでなく、友だちとこれからどんな関係になりたいか、落ち着いて考えようとしています。

● 場面③ 授業や学習——園や教室で、先生の指示・指導を聞いて学ぶとき

例：年長組（4,5歳児）のクラスは、「らいおん組のお店屋さん」と題した、工作とお店屋さんごっこをしています。みんな、先生の話聞きながら、手元の画用紙や粘土で工作をするのが待ちきれません。

● 本章での学びを踏まえて、EPISODE 1-2も参考に、子どもの「ものの見方」「考え方」について、次の視点で検討してみましょう。

- ① EPISODE 1-2の場面①～③を例に、それぞれの思考の特徴を考えてみましょう。
- ② 可能であれば、親戚や知りあいなど、身近な子どもと実際に接してみる、あるいはテレビの子ども向け番組などを視聴して、「この子はどんなことを考えて行動しているのか」という視点で、子どもを観察するなどしてみましょう。年長児（4,5歳児）と、小学校中学年児童（9,10歳）での、思考の特徴や違いについて表にまとめてみましょう。

(EPISODE 1-2 記入欄)

① EPISODE 1-2 の場面 i～iii を例に、それぞれの思考の特徴を考えてみましょう。

場 面	思考の特徴
i 自然物の認識	
ii 友だちとの交流	
iii 授業や学習	

② 可能であれば、親戚や知りあいなど、身近な子どもと実際に接してみる、あるいはテレビの子ども向け番組などを視聴して、「この子はどんなことを考えて行動しているのか」という視点で、子どもを観察するなどしてみましょう。年長児(4, 5 歳児)と、小学校中学年児童(9, 10 歳)での、思考の特徴や違いについて表にまとめてみましょう。

場 面	年長児 (4, 5 歳児)	小学校中学年児童 (9, 10 歳児)
i 自然物の認識		
ii 友だちとの交流		
iii 授業や学習		

記入者名：

(日付： 年 月 日)